

はじめに

本著は、2012年4月28日から1週間にわたって京都で開催された国際シンポジウム「人間科学と平和教育～体験的心理学を基盤とした歴史・平和教育プログラム開発の視点から」、およびワークショップ「こころとからだで考える歴史と平和」をもとにした記録と報告である。筆者らは、立命館大学にて、2007年より体験的心理学を基盤とした歴史・平和教育プログラム開発に取り組んできた。ここまでの途中経過は、

●戦争によるトラウマの世代間連鎖と和解修復の可能性：国際セミナー「南京を思い起こす 2009」の記録

(http://www.ritsumeihuman.com/hsrc/resource/19/open_research19.html)

●歴史のトラウマの世代間連鎖と和解修復の試み：国際セミナー「南京を思い起こす 2011」の記録 (<http://www.ritsumeihuman.com/cpsic/model3.html>)

として公開している。あわせて参照されたい。

本研究は、国境を越え、学問領域を越えた多くの先生方や平和活動に関わる皆さまの力を借りて一步一步進めてきたが、ここでこれまでの成果をいったん振り返り、さらに議論を深めて、今後、一定の成果を提示していきたいと考えている。ここに皆さまへの感謝を記すとともに、さらなるお力添えをお願いしたい。

なお、本研究は、文部科学省「科学研究費基盤（B）：日中の戦後世代を対象にした新たな東アジア型歴史・平和教育プログラム開発」（2011～2013年度）、および立命館大学「研究の国際化推進プログラム：人間科学と平和教育～体験的心理学を基盤とした歴史・平和教育プログラム開発の視点から」（2012年度前期）、立命館大学人間科学研究所が採択されている文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「大学を模擬社会空間とした自立支援のための持続的対

人援助モデルの構築」(2010～2012年度)の助成を得ており、本国際シンポジウムとセミナーは立命館大学応用人間科学研究科の主催で開催されたものである。

2012年8月21日 村本邦子